

手順名 HA構成(DBMS)		必要なパッケージは以下になります。 MariaDB、MariaDB-server、expect															
※ 設定・備考にあるバージョン(x.x.x)は、インストールするITAバージョンに読み替えてください。 また、(ITAインストール先ディレクトリ名)、(backyardサーバのホスト名)、(AnsibleサーバのIPアドレス)などの文字はインストールする環境に合わせて適宜読み替えてください。																	
No.	目的	目的							設定	備考							
		共通	構築資材管理	メニュー作成	ホストグループ	Ansible	Cobbler	OpenStack			Terraform						
ITAインストール資材展開																	
1	ITAのインストール資材を展開する	●								インストール資材展開先にITA資材vx.x.x.tar.gzを配置してください。 cd /(インストール資材展開先) ls -l vx.x.x.tar.gz	インストール資材の展開先は、どのディレクトリでも問題ありません。 オンラインの場合は以下のコマンドで取得してください。 wget https://github.com/exastro-suite/it-automation/archive/vx.x.x.tar.gz						
2										ITAインストール資材を展開してください。 tar -zxf vx.x.x.tar.gz							
3										ITAインストールディレクトリを設定します。 find it-automation-x.x.x -type f xargs -I{} sed -i -e "s:%%ITA_DIRECTORY%%:/(ITAインストール先ディレクトリ):g" {}							
yum-utilsインストール																	
4	【CentOS7、RHEL7の場合】 yum-utilsをインストールする	●								以下のパッケージをインストールしてください。 yum-utils	オンラインの場合は以下のコマンドでインストールしてください。 yum install -y yum-utils						
共有ディレクトリ(DBファイル保存先)設定																	
5	MariaDBのDBファイル保存先ディレクトリを作成する ※DBファイルを外部ストレージへ移動する場合に実行してください。	●								mkdir -p /(DBファイル保存先ディレクトリ)	例: mkdir -p /data/mysql						
6	共有ディレクトリを設定する ※DBファイルを外部ストレージへ移動する場合に実行してください。	●								以下の様に外部ストレージの共有ディレクトリとの共有設定を行ってください。 <table><tr><th>DBMSサーバの共有ディレクトリ</th><th>外部ストレージの共有ディレクトリ</th></tr><tr><td>/(DBファイル保存先ディレクトリ)</td><td>/(DBファイル保存先ディレクトリ)</td></tr><tr><td></td><td></td></tr></table>	DBMSサーバの共有ディレクトリ	外部ストレージの共有ディレクトリ	/(DBファイル保存先ディレクトリ)	/(DBファイル保存先ディレクトリ)			
DBMSサーバの共有ディレクトリ	外部ストレージの共有ディレクトリ																
/(DBファイル保存先ディレクトリ)	/(DBファイル保存先ディレクトリ)																
MariaDBインストール																	
7	MariaDBをインストールする	●								以下のパッケージをインストールしてください。 【CentOS7、RHEL7の場合】 MariaDB MariaDB-server expect 【CentOS8、RHEL8の場合】 mariadb mariadb-server expect	オンラインの場合は以下のコマンドでリポジトリを有効にしてください。 【CentOS7、RHEL7の場合】 curl -sS https://downloads.mariadb.com/MariaDB/mariadb_repo_setup bash 【CentOS8、RHEL8の場合】 リポジトリは追加しません オンラインの場合は以下のコマンドでインストールしてください。 【CentOS7、RHEL7の場合】 yum install -y MariaDB MariaDB-server expect 【CentOS8、RHEL8の場合】 yum install -y mariadb mariadb-server expect						
8	MariaDBのDBファイルを外部ストレージに移動する。 ※DBファイルを外部ストレージへ移動する場合に実行してください。	●								cp -pr /var/lib/mysql/* /(DBファイル保存先ディレクトリ)	例: cp -pr /var/lib/mysql/* /data/mysql						
9		●								rm -rf /var/lib/mysql							
10		●								ln -s /(DBファイル保存先ディレクトリ) /var/lib/mysql	例: ln -s /data/mysql /var/lib/mysql						
11	MariaDBの自動起動設定と起動を行う	●								systemctl enable mariadb systemctl start mariadb							
12	MariaDBのrootパスワードを設定する	●								mysql_secure_installation 後は対話形式で設定します。	※パスワードに使用できる文字は半角英数字と半角記号です。						
13	MariaDBの設定ファイルを配置する	●								【CentOS7、RHEL7の場合】 cp -p /(インストール資材展開先)/it-automation-x.x.x/ita_install_package/ext_files_for_CentOS7.x/etc_my.cnf.d/server.cnf /etc/my.cnf.d/server.cnf 【CentOS8、RHEL8の場合】 cp -p /(インストール資材展開先)/it-automation-x.x.x/ita_install_package/ext_files_for_CentOS8.x/etc_my.cnf.d/server.cnf /etc/my.cnf.d/server.cnf							
14	MariaDBを再起動する	●								systemctl restart mariadb							

No.	目的	目的								設定	備考
		共通	構築資材管理	メニュー作成	ホストグループ	Ansible	Cobbler	OpenStack	Terraform		
	ITA用DB作成										
15	MariaDBに接続する	●								mysql -uroot -p(MariaDBのrootパスワード)	
16	MariaDBのユーザを作成する	●								CREATE USER '(ユーザ名)' IDENTIFIED BY '(パスワード); CREATE USER '(ユーザ名)'@'localhost' IDENTIFIED BY '(パスワード);	※パスワードに使用できる文字は半角英数字と半角記号です。
17	ITA用DBを作成する	●								CREATE DATABASE (ITAのDB名) CHARACTER SET utf8;	
18	ユーザの権限を設定する	●								GRANT ALL ON (ITAのDB名).* TO '(ユーザ名)'@%' WITH GRANT OPTION; GRANT ALL ON (ITAのDB名).* TO '(ユーザ名)'@'localhost' WITH GRANT OPTION;	
19	MariaDBを抜ける	●								exit	
20	ita_baseのテーブルを作成する	●								mysql -u (ユーザ名) -p(パスワード) (ITAのDB名) < /tmp/it-automation-x.x.x/ita_install_package/ITA/ita-sqlscripts/ja_JP_mysql_ita_model-a.sql	
21	materialのテーブルを作成する		●							mysql -u (ユーザ名) -p(パスワード) (ITAのDB名) < /tmp/it-automation-x.x.x/ita_install_package/ITA/ita-sqlscripts/ja_JP_mysql_ita_model-l.sql	
22	material(資材紐付け管理(Ansible))のテーブルを作成する ※materialとansible_driverをインストールする場合に実行してください。		●			●				mysql -u (ユーザ名) -p(パスワード) (ITAのDB名) < /tmp/it-automation-x.x.x/ita_install_package/ITA/ita-sqlscripts/ja_JP_mysql_ita_model-l2.sql	
23	material(資材紐付け管理(OpenStack))のテーブルを作成する ※materialとopenstack_driverをインストールする場合に実行してください。		●					●		mysql -u(ユーザ名) -p(パスワード) (ITAのDB名) < /tmp/it-automation-x.x.x/ita_install_package/ITA/ita-sqlscripts/ja_JP_mysql_ita_model-l3.sql	
24	material(資材紐付け管理(Terraform))のテーブルを作成する ※materialとterraform_driverをインストールする場合に実行してください。		●						●	mysql -u(ユーザ名) -p(パスワード) (ITAのDB名) < /tmp/it-automation-x.x.x/ita_install_package/ITA/ita-sqlscripts/ja_JP_mysql_ita_model-l4.sql	
25	createparamのテーブルを作成する			●						mysql -u (ユーザ名) -p(パスワード) (ITAのDB名) < /tmp/it-automation-x.x.x/ita_install_package/ITA/ita-sqlscripts/ja_JP_mysql_ita_model-m.sql mysql -u (ユーザ名) -p(パスワード) (ITAのDB名) < /tmp/it-automation-x.x.x/ita_install_package/ITA/ita-sqlscripts/ja_JP_mysql_ita_model-m2.sql	
26	hostgroupのテーブルを作成する				●					mysql -u (ユーザ名) -p(パスワード) (ITAのDB名) < /tmp/it-automation-x.x.x/ita_install_package/ITA/ita-sqlscripts/ja_JP_mysql_ita_model-n.sql	
27	hostgroup(ホストグループ変数化)のテーブルを作成する ※hostgroupとAnsible_driverをインストールする場合に実行してください。				●	●				mysql -u (ユーザ名) -p(パスワード) (ITAのDB名) < /tmp/it-automation-x.x.x/ita_install_package/ITA/ita-sqlscripts/ja_JP_mysql_ita_model-n2.sql mysql -u (ユーザ名) -p(パスワード) (ITAのDB名) < /tmp/it-automation-x.x.x/ita_install_package/ITA/ita-sqlscripts/ja_JP_mysql_ita_model-n3.sql	
28	ansible_driverのテーブルを作成する					●				mysql -u (ユーザ名) -p(パスワード) (ITAのDB名) < /tmp/it-automation-x.x.x/ita_install_package/ITA/ita-sqlscripts/ja_JP_mysql_ita_model-c.sql	
29	cobbler_driverのテーブルを作成する						●			mysql -u (ユーザ名) -p(パスワード) (ITAのDB名) < /tmp/it-automation-x.x.x/ita_install_package/ITA/ita-sqlscripts/ja_JP_mysql_ita_model-d.sql	
30	openstack_driverのテーブルを作成する							●		mysql -u (ユーザ名) -p(パスワード) (ITAのDB名) < /tmp/it-automation-x.x.x/ita_install_package/ITA/ita-sqlscripts/ja_JP_mysql_ita_model-h.sql	
31	terraform_driverのテーブルを作成する								●	mysql -u (ユーザ名) -p(パスワード) (ITAのDB名) < /tmp/it-automation-x.x.x/ita_install_package/ITA/ita-sqlscripts/ja_JP_mysql_ita_model-o.sql	